

ツクリテからうまれる瀬戸市の空き家活用

まえじま えりこ
前嶋 依理子*

1. はじめに

陶磁器全般を指す呼称である「せともの」—その由来となっているのが我がまち愛知県瀬戸市である。1000年を超えるやきものの歴史を有する瀬戸では戦前からまちが栄え、陶磁器産業にかかわる職人を大量に受け入れてきた。しかし、陶磁器産業の衰退とともに中心市街地の高齢化と空洞化が著しく、空き家も増加している。一方、周辺には芸術大学ややきものやガラスの技術を学べる研修施設などが多く存在し、ものづくりに挑戦する若者が流入する土壌がある。

2. 瀬戸はツクリテのまちだった！

瀬戸市は、平成27年度に瀬戸市空き家等対策計画～せとで住もまいプロジェクト～を策定した。計画策定に際し行ったワークショップでは「瀬戸はものづくりのまち！」というキーワードがたくさんあがり、それが計画の骨子となった。

1) キーワードは「ツクリテ」

計画を策定するうえで我々が大切にしていたのは、定住・交流人口の増加や観光・景観といった地域活性化の観点から空き家の有効活用方策を検討するこ



写真-1 ワークショップの様子

とであった。瀬戸は名古屋から電車で30分程だが、やや遠い場所と感じている人が多いのも実情である。そのため利便性の割には地価が安い。空き家も増えており、大規模な修繕が必要なものも多い。この現状は広い作業場を必要とするものづくりに携わる人には魅力的に映ったようだ。自分たちの感性や個性を大事にして自分たちらしい住まいや居場所を自分たちで生み出す！こうした方を「ツクリテ」と称し、空き家対策の目玉にしようという考えが生まれた。

(1) 基本目標は…

①「ツクリテ」の定着を促進する→②「ツクリテ」とのふれあいを求めて人が流入する→③流入した人たちが自ら地域の「ツクリテ」となつてまちを盛り上げていく。そんなツクリテスパイラルを期待し、『「ツクリテ」が根付く、「ツクリテ」とふれあうまち』を基本目標とした。

(2) ウェブの開設

空き家情報バンクのウェブ開設に際し、サイトの呼び名を「せとで住もまい！知っここサイト」と名付けた。この中では空き家の情報のみならず、地域の情報や地域で活躍する人、移住者の声などを掲載している。

2) リアルな場所の誕生

平成29年6月「ツクリテ」の活動を支援する拠点としてツクリテセンターが開設された。「ツクリテ」の情報発信や空き家・空き工房の情報、「ツクリテ」同士の交流や学びの場として利用され、「ツクリテ」が発信するツクリテチャンネルの動画配信も立ち上がった。ツクリテセンターに登録されている「ツクリテ」は令和2年2月末時点で154人となっている。

*前瀬戸市 都市整備部 都市計画課 建築指導係長（現瀬戸市 地域振興部 ものづくり商業振興課 課長補佐兼ものづくり係長）

0561-82-7111 (代)



図-1 ツクリテチャンネルの情報発信ツール



3. 動き出すツクリテ

空き家等対策計画でツクリテ支援を銘打って以降、「ツクリテ」からの要望等を具体的に相談される機会が増えた。そこで腕に覚えがある人を対象とした格安空き家ツアーやDIYワークショップも行った。

また商店街を対象とした瀬戸まちづくり（株）によるチャレンジショップや空き店舗ツアーなど新たなツクリテ応援策が動き出した。この結果、平成27年度から令和元年度までの5年間で商店街で新規に事業を起こした方が24組誕生している。

①ツクリテの拠点をツクリテが創った

ツクリテセンターの開設と同じ平成29年6月、「タネリスタジオリディング」がオープンした。この建物は、瀬戸市の空き家情報バンク登録第1号物件だった。鉄骨造3階建て延べ面積600㎡弱の空きビルを若手現代美術家たちが集まってタネリスタジオリディングというチームを作り、アトリエや住居、カフェ&ギャラリーとしてリノベーションしたものである。

②ツクリテたちが集う場所・つながる場所

平成30年瀬戸の中心市街地に2つのゲストハウスが誕生した。築140年の古民家を改修した「ゲストハウスますきち」と商店街の店舗を改修しカフェが併設された「もやいや」である。特に「ますきち」は、クラウドファンディングを活用した資金集めや300人を超える人に改修を手伝ってもらうなど人や地域をつなぐ拠り所となっている。

③ツクリテによる地域への発信

令和元年、あいちトリエンナーレの開催時期にあわせて瀬戸現代美術展が開催された。瀬戸にゆかりのある作家を主体とし、かつて国の窯業研究施設であり現在は市の所有となっている遊休施設を貸し出



写真-2 タネリスタジオリディングの今昔

して開催するというものであった。28組の作家が参加し、28日間の会期中2,000人を超える来場者を迎えた。これはタネリスタジオリディング内のカフェ&ギャラリー「Barrack」のオーナーが中心となって「ツクリテ」に声をかけ、実現した自主企画である。



写真-3 瀬戸現代美術展ポスターと新聞記事

4. おわりに

誰もが「私は〇〇のツクリテです！」といえるまちになったら面白い。そんな思いでスタートした『せとで住もまいプロジェクト』だが、5年経過した現在、少しずつ形が表れてきたように感じる。ツクリテスパイラルの一巡目が動き出している。